

第3回栗東駅周辺まちづくり検討会議

議事要約

平成26年6月23日（月）午後7時30分～
コミュニティセンター大宝 大会議室

1. 開会

2. 市長あいさつ

（省略）

3. 報告事項

（1）栗東駅東口公共用地の利活用に関する市の基本的な考え方

《資料説明（事務局）》

（省略）

（2）先行事例の調査結果について

《資料説明（事務局）》

（省略）

《質疑応答》

委員

資料にはいくつかのシナリオが並んでいるが、いずれも「帯に短し、たすきに長し」といった印象を受ける。

私は、やはり、大原則として財政支出がない中での手法の選択が良いと考えている。市の資料では④が良いという様な判断をしているが、主体的に市が関わるとすると、資料2で示されているように、歩行者が多くなければ、そして、規模が大きくなければ、にぎわいが継続することは困難である。また、民間の核テナントが出て行った後に難しい対応の問題が出てくる。

今の栗東市民の意向を把握しながらリスクのない方法をとる必要がある。また、大規模な事を考えなければ成功しない。駅東側だけではうまくいかずに市が負債を抱えることになる可能性が高い。そういったことも勘案しながら判断する必要がある。

事務局

栗東市は、市民に大変なご協力をいただきながら、財政再建に取り組んでいる途上であることから、現時点で大きな財政出動を伴う利活用のシナリオを歩むことはできないと考えている。

委員

冒頭の市長のあいさつの言葉を聞いていると、すでに方向性は見えてきているような気もするが、やはり、皆さんの議論を尽くしてから前へ進むことが大事である。

委員

説明を聞いたところ、要するに財政出動はない、という市の意思が分かった。市民のボランティア活動を得て取り組むのが最もリスクが少ないという判断をしている。本当に、一定規模の財政支出の可能性はないのだろうか。我々委員は、親の財布の中をのぞいていないから分からない。言われた通りにするしかないのだろうか、という気持ち。アンケートは財政支出なしを前提条件にして実施するのか、それとも白紙の状態で実施するのだろうか。

事務局

今の財政再建の取り組みの中で、今後の行政需要を考えた時には、駅前への投資は困難だという判断をしている。金額的にいくらかというのは申し上げられる状態にはない。

委員

今まで東口の公共用地の利用方策の検討から、周辺の土地利用の検討へと、皆さんのご意見を聞きながら市役所の意見のとりまとめ結果を聞いた。

今日の会議では、冒頭に、市長が、市民のにぎわいの場とする考えを打ち出された。駅ビルから新幹線くらいまでのエリアを対象に、便利さと静けさとにぎわいのあるまち、についての共通認識を持って議論しなければいけない。ざわざわしたにぎわいが栗東駅前のにぎわいなのか、用途制限をして遊技場を制限しているが、そういった落ち着きのあるにぎわいなのか、まず、共通認識を持って議論を先に進めることが重要ではないだろうか。

④が市の考えなのだろう。成功事例を整理して得られた結果は、誰が見ても分かる。例えば、大規模な後背地のないところでは、成功していないというのと同じ。せっかくなので、こんな良い例があるという紹介があるとよい。今は、滝やせせらぎが止められているが、栗東駅は、水と緑があってよい駅だと思う。

事務局

駅前広場の滝やせせらぎについては、現在は、残念ながら水の流れを止めている状態になっている。維持管理に要する費用などを考慮しての判断である。

人口規模が栗東市と同程度の駅前で開発をした事例では、公共施設が入居している事例が多い。民間でうまく利益を出しながら運営している事例はない。

委員

私は、仕事の都合で5年間中国にいた。空気の悪い所で5年間暮らして戻ってきたときに、栗東駅前の変わり様を見て大変驚いている。素晴らしい駅前だと感じている。もう少し頑張れば、さらに良い駅前になるだろうと期待している。

大変に青く美しい空が広がり、緑も濃い。ハナミズキもツツジもきれいである。ここ最近では、黄色い花が咲いてきれいだった。栗東駅前の良さを凄く感じている。守山駅、南草津駅、瀬田駅と比べても、栗東駅の良さがあると思う。花と緑が豊かな方向性で、栗東駅はとても良いと思う。さらに良くしていくには、例えばアジサイなどを駅前だけでなく、前の通りも含めて植えるなど、年間を通じて様々に楽しめるようにすると良い。あまりお金をかけずに、広がりを持たせることができるのではないだろうか。

一方、せっかく噴水、水路があるのに、水が流れていないのは良くない。あの区画だけでなく、全体が壁になってしまっている部分も含めて、日向ぼっこをしたり、子供を遊ばせたり、といった使い方が考えられる。

こんなに静かできれいな駅は、この近隣にはない。今の良さを活かして、雨が降った時のための屋根を整備したり、週末のイベント開催、ラジオ体操の場として有効活用する、お花見の場をつくる、お弁当が食べられるスペースを整えるなど考えてはどうだろうか。栗東全体で考えても良いのではないだろうか。

平和堂グループの中でも、この地域は子供が大変多い地域として認識している。お金をかけずに、例えば芸術的な展示をするなど、子供たちがまちに出て遊ぶ仕掛けをするとにぎやかになるのではないだろうか。

彦根の庄堺（しょうさかい）公園は花が有名で写真家が集まっていると聞いている。植物の潤いや子供を中心とした家族のにぎわいが感じられる駅前が良いと思う。

何が成功か、いろいろあるが、決して大阪、京都を目指す必要はない。栗東ならではのものがあれば良い。

我々民間で協力できることを一緒にすることができれば、よそにも自慢できる街になると思う。

委員

これまで地元商工業者として話し合ってきた。にぎわいをどのようにしていくのが難しいと思っている。ウイングプラザに初期から出店しているが、どんどん空き店舗が出てくるという現状がある。歩いている人が少ない。

最初は住んでいる人が、ガチャガチャしたにぎわいを望まず、静けさを求めていたのでズレがあった。最近は平和堂さんとも協力して15年かけてようやく夏祭りができるようになった。以前は、商工業者が何か動くと騒音問題として捉えられた。最近は、地域内で子供が育つにつれて、コミュニティが育成されておつきあいができるようになった。自治会さんとも連携して様々な活動ができるようになった。

にぎわいを商工業者が潤うもの、と考えるのか、人が集うにぎやかさと考えるのか、こういったイメージを共有すべきだろうか。我々、商工業者が話すときには、経済的に潤うことを第一に考えて発言する。栗東駅周辺は独特の難しさがある。旧来からの縫製の地域と駅東側の融合の難しさもある。地区計画の問題もいつも俎上に上るが、住民は実は、地区計画の改正までを望んでいらっしやらなかったりする。

委員

④で進める、という市長の判断が既に出ている。皆がついて行けるにぎわいのテーマがぼやけている。水と緑、花だけでなく、もっと何とかならないか。栗東には中央競馬会があるのだから、競馬の街として活性化を働きかけることができないか、少し期待している。結果的に市民皆がついて行けなくては盛り上がらない。意識を醸成することがプランの大きな役割である。急いで進めることはないので、じっくり時間をかけてでもにぎわう栗東をつくり上げて欲しい。もっと大きな市民を盛り上げる取り組みにして欲しいと思う。

委員

静かな佇まいを求めるのか、にぎやかさを求めるかの違い。駅を降りて心が休まるような環境をこれ以上進めるのであれば、大きな損失を被ると思う。この地域は商業地域の用途地域が指定されている。大原則は商業の振興である。

西側は中山道を超えて1 kmも行かないうちに調整区域、農業振興地域になっている。それを考えるのであれば、駅前にはにぎわいをどのように実現するのかを求めてしかなるべきだと思う。商売が繁盛するためには、人を呼び込む必要がある。そのためには、何をすべきだろうか。

どこかにあるものを、取ってきてこちらに持ってくる。人を集めることができれば、にぎわう。商業地域で静けさを求めるべきではないと思う。

平和堂もお客さんがいて成り立つわけで、なぜ緑や花がよいとおっしゃったのか理解に苦しむ。時代を先取りすることが重要である。

委員

草津や守山で買い物しているから良いというのなら別だが、栗東市内で商業を集積できる可能性があるのは、この近辺しかない。ここで諦めるということは、買い物を市外に依存することを認めていることになる。

本来は、商業振興のエリアとして発展させるべき地域に地区計画で制限して分かっていくなくなってしまったという印象がある。

現状を考えると、土日にイベントなどの会場として活用するというイメージを持つ。とりあえずは、こういったイメージで短期的に使うのは、当然のことだと思う。中長期的に全体の再編について議論する必要があるのではないだろうか。

事務局

市の基本的な考え方は、皆さんご意見を踏まえて、市の考え方をまとめさせていただいている。もう少し財政の回復まで時間を要する。短期的な考え方として、人が集まる仕組みを考えて行きたいという思いがある。その手法をこれから考えて行きたい。にぎわいは、大都市の騒々しさとか、調和のとれた、短期的なイベント時のにぎわい、花や緑で集客するイメージもある。基本的には短期的なイベント時などのソフト事業などを通じたにぎわいから始めていくことを考えている。

市民アンケートにおいて、にぎわいの方向性を尋ねることにしている。短期的にはただ今説明申し上げた基本的な考え方で、中長期的な部分は栗東駅の周辺エリアも含めて、市民、利用者がどのような姿を望んでいるか、意見をいただいて対応を検討していきたい。

市長が申し上げたように短期的には駅ビルの建設などは難しい。市民意向を把握してまたこの場でお示しさせていただきたい。

アンケートも含めてもう少しご意見をいただきながら仕組みづくりなどの参考にさせていただきたいと考えている。

4. 協議事項

(1) 市民アンケート調査について

《資料説明（事務局）》

(省略)

《意見交換》

委員

もう調査票は完成しているのだろうか。意見を述べても良いのだろうか。

事務局

お示ししたのは、アンケート調査票のたたき台であり、ご意見をお願いしたい。

委員

大宝地区は自治会が多数あり、マンションが非常に多い。マンションの自治会長さんは、栗東駅に新快速を止めて欲しいとおっしゃる。このアンケートでは新快速について触れていないので、設問に加えて欲しい。

事務局

新快速の停車についての要望は、これまでもずっといただいており、市としても既に認識している。あらためて今回のアンケートでも確認できるよう検討させていただく。

委員

南草津に新快速が止まったのは、乗降客が多いからである。新快速の停車を求める声は、栗東駅の乗降客をもっと増やしてくれということの裏返しではないだろうか。

委員

中小企業専門部会で、地産地消についてアンケートしたことがある。商工業者としての目線での話になるが、日頃どこで買い物するか聞くと、草津のアルプラザとイオンモールという回答が多かった。

栗東駅前に商店街があるのをご存じか、マンションに住んでいる人などに聞くと、

よく分からない、知らない、と答えた人が多いのにショックを受けた。

今のままで良いという回答になることが目に見えている。草津やイオンに行くことで満足している。栗東駅前に関心がない。これでは地産地消が行われることはない。地産地消の観点から地元購買は重要。地元の商業の活性に関心がない。地元商業の活性が実現しなければ、元気が出てこない。

イベントや子育てに特化しようという意向が出てくると想定されるが、もっと商業振興に踏み込んだ設問がなければ、活性化につながらないのではないだろうか。地区計画でパチンコが出店できないことや、車で来にくいこともあって草津や守山へ買い物に行くという意見もあった。せっかくアンケートを実施するのであれば、そこまで踏み込むことを検討すべき。

委員

今後の方向性を判断できる結果が得られる内容にすべき。商工業者などへのアンケートの結果とどれくらい温度差があるのかも比較できると良い。

委員

関係する団体のアンケートができると良い。短期的にはイベントなどソフト事業中心で、という副市長の言葉があったが、アンケートの回答者がとりあえず、短期と捉えるかどうか。長期的にでも駅ビルなども選択肢としてあり得ると考えているということを示して、その反応をもらうという方法もあるのではないだろうか。これでは、駅ビルをすべきという意向が表に出てこないと思う。

事務局

問9の選択肢の中に「駅ビル」という限定的な文言を入れるべきなのだろうか。選択肢には「大規模な複合商業施設」という言葉があり、駅ビルを含めて商業的なにぎわいを求める人の意向を汲み取ることができるのではないだろうか。

委員

さきらの広場でもイベントを月に1回実施している。少しずつ参加者が減少しているようだ。近くに駅があっても車で行けるようでない、最近の人は集まらないのではないと思う。駅前の商業施設へ行くのに駐車場が平和堂さんにしかないのは、ネックじゃないだろうかと思う。駅前でコンサートがあるなどのメリットがないと無理ではないだろうか。

静かで落ち着きがあり、水、緑、人が集う駅前という方向性を打ち出しているが、水を流すことができるのだろうか。

子供の遊び場になっているが、大人の憩いの場が欲しいと思う。意見を聞いているよりも構想を前へ進めていかなければならない。人の意見は様々だし、草津、守山で買い物できれば良いとなるならば、まずは駐車場がなければ、行けないと思う。

関連して、栗東駅のエレベーターなどはどういった計画になっているだろうか。

事務局

栗東駅西口へのエレベーターの設置、改札の中へ降りて行く部分など、バリアフリー整備の計画を策定しようとしている。平成 30 年の整備を目途に今年度から計画を策定していく予定である。

委員

すぐに整備できるとは思っていないが、整備の要望の声が上がってから、随分と長くなっている。すぐにでも欲しい人がいらっしゃり、長くかかると亡くなってしまう。

短期の取り組みなら、アンケートで意向を聞いているよりも、早く実施することが重要ではないだろうか。こんなアンケート内容ならば、実施につながる具体的な意見をどこから吸い上げるのだろうかと思う。

早く土地の活用をしないともったいない。

事務局

せせらぎの関係は、循環型により水を流しながら水に親しむ空間を創出して来た経緯があるが、ポンプの故障や水路の一部で漏水などをしており、節電対策も求められている中、現在、運転を休止している。

今後再稼働するには、再点検し、部品の交換や補修が必要になると考えている。水辺の復活がにぎわいにつながると判断された場合には、再投資して実現したい。

委員

ぜひ水を流して欲しい。そうなれば、ミニコンサートの開催などにぎわいにつながることも考えられる。それが全くできないのでは、にぎわいも難しい。流せないと決まっているのであれば、水路の溝に花を植えるなどをすることも考えるべき。

事務局

先般、街路灯が間引き消灯されている、全て灯すべきとのご意見があった。確認したところ、これも節電の関係から間引いた経緯がある。駅前広場の交差点付近については全て点灯しているが、それ以外は間引いて点灯させている。今後、水銀灯を消費電力量の少ない LED に切り替えていく必要もあり、街路灯については点検しながら徐々に LED への切り替えを進めていきたい。

水の関係についても、補修などの費用がどれくらい要するのか、点検確認を進めていきたい。

委員

手原駅も記念事業など予算をあげているが、栗東駅でも何かできるのではないだろうか。

今更、アンケートして建物建ててくださいと言われても、できないものはできないのではないだろうか。

事務局

アンケートを実施し、市民意向を把握した上で判断しなければ、市としての方向性を持ったとしても、説明責任を果たす必要がある。アンケートについていただいたご意見は、対象者や思い切った施策を選択肢に含めるなど、対応を考えていきたい。

委員

広場に何か小規模な施設を建ててお茶を濁すようでは何の結果も得られない。大宝小学校の敷地も全部新たなまちづくりのスペースとして使うくらいの大きなことを考えるべき。後世に恥じないように計画すべき。

委員

このアンケートの駅前広場の利用の仕方として資料２の④へと誘導する印象を持った。駅ビルを建設するなどの選択肢があった方が良かったと思った。

駅周辺と来訪者、商工会などの意見の把握も検討してみてはどうか。

6. 閉会(副市長あいさつ)

(省略)

以上